

シリーズ1

6タイプの参考書を使いこなそう！

まずは、「受験用の参考書や問題集」として、ふさわしいものをいくつか紹介しておきましょう。毎年のように「どんな参考書がいいか」と聞かれるので、その質問に答えておきましょう。

ただし、参考書や問題集と言っても、実に様々のタイプのもがあります。だいたい、以下の6つのタイプに分類することができます。それぞれに特徴があるので、それを理解して使いこなせば実力がアップしていきますよ。

ただ、絶版になったりしているものがあったり、書店には置いてないものもあります。まずは、自分で手に取ってみてください。分かりやすいものであればOKです。しかし、分かりにくいものはダメです。

<1>「主食」と言える本

これは、歴史の「流れを理解」し、必須事項を「覚えていく」「インプット」していくために「中核」となる本です。

「主食」の本は、あなたが使っている「**山川出版社の教科書**」が良いでしょう。受験に関して言えば、教科書に勝るものはないと思ってください。

大切なのは、教科書で「流れ」をつかむこと。センター試験は「教科書」から100%、難関私大でも80%は教科書から出題されます。

教科書の本文は言うに及ばず、脚注や図表、史料、写真などすべてが入試の対象となります。だから、教科書をほとんど読んだことがない、と言う人がいるとしたら、受験生としては失格です。特に、脚注のあるものは重要です。

<2>インプット用の参考書

ただし、どの教科書にも弱点はあります。それは、「どこが重要か」「出題頻度の高い所は何か」ということがわかりにくいことです。ゴシックの単語だけが重要かという、そうではないんです。その弱点を補強するのが「参考書」であり、「問題集」です。

インプットする際に必要なことは「整理して」頭に入力することです。バラバラに入力したとしたら、いざというときに思い出すことは難しいですよ。その点、これらの参考書類は「整理」されているから、教科書を補足する「インプット」用の参考書としておすすめなんです。

『金谷俊一郎のセンターはこれだけ!』 金谷俊一郎、文英堂

→ご存じ東進ハイスクール講師で、テレビにも良く出てくる超有名人の金谷俊一郎先生の本で、「古代～近世」「近代・現代」編の2分冊になっています。センター試験だけならこれで十分でしょう。ただし、問題はほとんどありません。

★『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」がわかる本』シリーズ、金谷俊一郎、東進ブックス

(原始・古代史) (中世・近世史) (近現代史) (文化史)

→「なぜ」と「流れ」がわかれば歴史はもっとおもしろい、というコンセプトのもと、重要ポイントが表解板書としてまとめられたりして、わかりやすい。わかりやすければ、暗記もしやすいです。

★『本番で勝つ!日本史B超合格講座』 山田康雄他、文英堂

→日本の通史だけでなく、文化史や史料など全時代をまとめてあり、センター試験や中堅の私大対策にはグッドです。

★『本番で勝つ!日本近現代史の「超」合格講座』 塚原哲也、文英堂

→上で紹介した『本番で勝つ』シリーズの近現代版です。個人的には塚原先生の駿台の講義を2年に1回の頻度で受講しているのですが、「超」お勧めの先生ですよ。

『大学入試合格ナビ 菅野の日本史B講義録』シリーズ、菅野祐孝、代々木ライヴ

(原始・古代) (中世) (近世) (近代・現代)

→昔は語学春秋社の「実況中継」シリーズで人気を博していた菅野祐孝氏。彼の授業を「再現」したのがこの本で、代々木ゼミナールが新たに作りました。世界史B選択者で、日本史Bの授業を受けていない人(あるいは日本史Aしかを受けていない人)は自力で勉強しなければならないので、「教科書+講義録」を試してみましょう。

※「★」マークのついているものは特にお勧め。
※参考書・問題集は最低2冊用意しましょう。

< 3 > 総合的な「問題集」

これは、頭に「インプット」=「入力」した知識や情報を、確実に自分のものとするために、「アウトプット」=「出力」するための本です。

覚えたはずの知識は「アウトプット」しなければ、覚えたかどうかもわかりません。「問題を解く」ことはまさに「アウトプット」になり、頭に入れたはずの知識がちゃんと頭の中に入っているかどうかをチェックすることができます。

それだけではありません。問題形式の方が記憶にも定着しやすいし、入試問題形式に慣れるためにも絶対に必要です。いろんなバリエーションの問題があるので、穴埋め形式だけではなく、正誤問題、年表の問題や地図や写真の問題にも慣れましょう。

このタイプの参考図書をいくつか列挙しておきます。

★『短期攻略センター日本史B』 福井紳一著、駿台文庫

★『センター試験への道 日本史 問題と解説』 山川出版社

→センター試験の過去問題を時代別・テーマ別にまとめたものです。

★『重要問題演習日本史B』 数研出版

→時代別やテーマ・論述に分かれており、要点の整理から発展演習まであって、私大対策や国公立の2次試験対策に向いています。

『日本史B一問一答完全版』 金谷、東進ブックス

→東進スクールの名物講師の金谷先生の本です。センター試験受験者には必須アイテムと言って良いほど、多くの受験生が持っているものではないでしょうか。

『センター試験短期攻略問題集 (改訂版)』 福井紳一著、駿台文庫

→問題の量は多くはないですが、解答解説が素晴らしく充実しています。

< 4 > 「分野別」「テーマ別」の問題集

これは、受験直前などに、「記憶のまとめ」に使う本です。

「政治史」「経済史」「文化史」「税制・法制度史」など、分野別にコンパクトにまとめたものがあります。インプット用、アウトプット用に使い分けてみてください。

★『日本史Bよくでるテーマ別問題集』 井之上勇・角田和孝、駿台文庫

→問題の量は多くないですが、要点の整理や解説がわかりやすいです。問題集の善し悪しは「解説」で決まると言っても過言ではないです。答えだけしか載っていないような問題集は基本的には×です。

『菅野の日本史B問題集 (1)～(4)』 菅野祐孝、清水書院

→(4)は「テーマ史」です。(1)～(3)は各時代別の構成となっていて、問題の量も多いです。ただし、マニアックな問題も多く難関私大向けと言えます。

『菅野の日本史必出史料』 菅野祐孝著、文英堂

→入試に出る史料を徹底して解説。問題の量も多く、史料関係はこれで充分。難解私大にチャレンジする人向けです。

『スピードマスター日本史問題集』 東京都歴史教育研究会編、山川出版社

『スピードマスター日本文化史問題集』 河上一雄・仙田直人著、山川出版社

→両方とも、各時代・各テーマについて、表や図を駆使して理解が深まるように構成されています。問題は「穴埋め」形式のモノばかりですが、そこそこ使えます。直前のチェックに使うと良いでしょう。ただし、偏差値50の壁が超えられない人は、基礎力を付けるために普段から使用するといいいでしょう。

< 5 > 「辞書」

★『日本史B用語集』 全国歴史教育研究協議会編、山川出版

→教科書を読んだり教師の話聞いても分からなかったことや、その事項の周辺の知識を固めるために使います。山川の教科書とセットで使うと役に立つでしょう。

< 6 > 「赤本」 = 「過去問」

「過去問はいつからやればよいですか？」という質問も時々あります。

答えは、「志望校が決まったら、まず、チャレンジしなさい」です。

自分が受験する大学の過去問を、まず、解いてみましょう！！ 答えられなくても全然構いません。ポイントは、志望大学の問題はどんな傾向・特徴があるのかを実際に「やって」みて「感じる」ことです。そして、それに慣れることが大切です。

★いわゆる『赤本』 = 「志望大学の過去問題集」

→教学社から全国の大学の過去問が多数出版されています。進路指導部の資料室へ行けば、たくさん揃えられています。ただし、あなたの第一志望の「赤本」は自分で購入しましょう。なぜかって？ 解説を読んで、赤線を引っ張りながら、クシャクシャになるまで使い切るためです。他の会社からも「青本」「黄本」などが出ています。

★『進研』や『全統』の過去の模擬試験

→持っているはずですよ。模擬試験は「やりっぱなし」はダメだし、もったいない。問題を再度解くだけでなく、できなかった問題を中心に「解説」をしっかりと読んでおきましょう。

「できないこと」を「できるようにする」のが勉強ですよ。

論述対策

★『日本史の論点』塚原哲也・鈴木和裕・高橋哲、駿台文庫

→2015年に発行された論述対策用の問題集です。「論述力を鍛えるトピック60」というのが副題で、それぞれのトピックに対して2つ～4つの論点（解説）が設けられ、さらに2つの課題が課されていきます。基礎知識を獲得できるし、「書く」という練習を重ねることで論述に対応できる学力を磨くこともできます。ただし、市販されていないので、2次試験などで論述が必要な人は、私まで申し込んでください。

★『日本史論述研究～実践と分析』福井紳一、駿台文庫

→細かな「採点基準」があらかじめ示してあり、「根拠のある」自己採点がしやすい問題集です。もちろん、解説が詳しく論述力を高めるのにふさわしいと思います。

『日本史論述問題集』宇津木大平・高橋哲・谷口直人、山川出版社

→山川の教科書に準拠した論述問題集です。「1日2題で35日、入試直前のまとめとしても最適」と本の帯にあるように、70題の論述、詳しい解説があります。

『考える』日本史論述～覚えるから理解するへ』河合塾

→これは、現物が手元にないのですが、「名著」と言われています。